

Webカメラを使ったコミュニケーションの工夫

埼玉県立戸田翔陽高等学校 岩本 太一

1. はじめに

この実践報告は、私が所属している埼玉県高等学校情報教育研究会の平成22年度の研究テーマである「コミュニケーション能力の向上を目的とした授業の工夫」の授業実践である。

このテーマで私はコミュニケーションの成立を構成する「言語的要素」と「非言語的要素」について、また円滑なコミュニケーションを成立させるには「非言語的要素」が重要であることを理解させるのが目的である。

2. Webカメラの利用

コミュニケーションにおける「非言語的要素」が重要であることを気付かせるために、Webカメラの利用を考えた。

★画面を見ながら話す。。。



★カメラを見ながら話す。。。



⇒Webカメラを通すことによって普段は無意識だった“視線”や“うなずき”、手などのジェスチャーなどを意識させる。

3. 展開

授業では、以下のような対面コミュニケーションとWebカメラを介したコミュニケーションとの違いを比較させる。

★対面の場合



★Webカメラを介する場合



“1対多”の状況を取り入れたのは、ビデオ通話ソフト（今回はSkypeを利用）を使い複数で会話する際に、受信者の“視線”や“うなずき”の行為が、発信者にとっても会話の成立に必要であることを気づかせるために用意した。

4. 実際の流れ

本来は、ビデオ通話ソフト（Skype）のインストールを含めて2時間分の授業として考えていたが、実施時期の関係で1時間分の授業として実施。このため、事前準備の項目・時間が多くなった。

■事前準備

- (ア) Skypeのインストール
- (イ) Webカメラの接続・ドライバインストール
- (ウ) Skypeアカウントの作成（40人分）
- (エ) Skypeのコンタクトメンバーの追加
- (オ) Skypeアカウントを書いた紙

実際では、教員1人の作業で(ア)～(オ)まで2時間程度を要した。

■授業（1時間分）

- (ア) 携帯電話などのコミュニケーションツールについて発問
- (イ) Skypeやヘッドセット等の機器の説明
- (ウ) グループ分け（3人1組）
- (エ) 3人でのビデオ通話

このとき、どのようなしぐさをしているか、普段の対面の会話と異なる点はないか注目しながら、ビデオ通話させる。

(オ) まとめ

コミュニケーションの言語的要素と非言語的要素について、プリントにまとめる。

5. 振り返り

■生徒の感想から

「楽しかった。」や「初めて使った。もっと使ってみたい。」という感想が多いなか、「顔が見えるせいか、話しづらかった。」という感想もあった。「顔が見える」のに「話しづらい」という矛盾した感想が今の生徒のコミュニケーションについての現状を表しているように感じた。

■有効だった点

- ・SkypeやWebカメラといった普段使ったことがないソフトウェアや機器を使ったため、生徒の参加意欲を高めることができた。
- ・コミュニケーションには、言葉にならない「非言語的要素」もあるということを知った。

■改善を必要とする点

グループ割りによっては隣の人とSkypeを通じて話すという状況が生まれてしまうので、工夫が必要である。また、授業2時間分を想定しているが、若干実施時間が厳しいようであった。アカウント作成の際にパスワードについての話や、進学・就職の面接の際の姿勢などの内容を織り交ぜて、やや長期的な授業とした方が、時間にゆとりがでけると感じた。